

# TAKE YOUR CHANCE ～茨の道にも花は咲く～



コロナ対応の卒業式が終わった。2年生の参加者は生徒会執行委員長 だけ。君たちは見たことがないが、中央のいつもの卒業式は本当にいい、歌の卒業式なんだ。

## 進路講演会があった

去る2月24日水曜日、ホームルーム活動の時間を使って進路講演会を行った。進研模試でおなじみのベネッセ、青森県担当池上俊太郎氏によるもので、大まかに言うと、①今から勉強を始めるべき、②進路志望は安易に落とさないこと、③進路志望は高く設定しておくべき、④勉強が「作業」にならないように頭を使おう、という話だったね。

翌日2クラスくらいで、「昨日の講演会が良かったという人！」と聞いたら、半数以上が挙手している印象だった。講演会のテーマというものは学校とベネッセとで相談して決めている。今回は3年生0学期と言われる今に合っていて、やる気を出しかけている君たちをうまく後押しする講演会になったと思っている。おうちの方にはあの時配布したのと同じ資料（私のメモが書かれているが……）をClassiで配布しているので、講演会で思ったことを話してみてもどうだろう。

やはり受験勉強のスタートが早ければ早いほど、第1志望合格率が高いようだったね。もちろん、スタートが遅い人より単純に勉強時間が長くなるからということはあるだろうが、周囲より先に軌道に乗っているということも大事だと思う。夏休みくらいになれば、さすがに普通の高校3年生は受験勉強をしていると思う。全国のライバルも勉強して力がついているのだから、集団の中での位置を示すものである偏差値は、そうそう上がらなくなってくる。自分が頑張っても周りも頑張るから順位が上がらない、みたいな話だ。そこで、4月の進研記述模試（学校が始まってすぐの9日金放課後・10日土）や、6月の進研マーク（共通テスト形式）だと、同じく頑張っても秋よりは偏差値が上がりやすく、モチベーションが上がる。ティモンディではないが「やれば、できる」という気持ちになりやすいわけだ。なんでもそうだが気持ちの盛り上がりは大事なもの。ベネッセから結果が来るにはマークなら3週間、記述なら1か月くらいかかるが、そこから次の模試まで勉強しようという気持ちは高まるはずだ。

## 総探、論文を書く

1年生から取り組んできた総合的な探究の時間。2年生の学問探究の集大成として、「論文を書く」まで来た。菊池先生のお話で久しぶりに出てきたSDGsと学問テーマを結びつけ、社会とのつながりを意識し

ながら、実際の論文の真似をしたり、先日配布されたワード文書のヒントをもとにしたりして取り組もう。もう一通り書き終わった者もいると聞いているぞ。

3月16日火曜日が提出〆切。昨日の休み、今週金～月の4日間とおあつらえ向きに時間がある。ぜひこれを生かして、しっかり取り組んでほしい。18日にはグループ内で読み合いの活動になる。あまり読ませられないものにならないように。そこでアドバイスをお互いにしあい、5月の発表会に向けてさらに磨き上げるのだ。まずは3月16日だ。ここで相当程度仕上がれば後は微調整となり、3年生になる前に受験勉強に入れるというもの。休みがこんなにあるのに英語週末課題が超マイルドなのは、探究に目途つけて受験勉強スタート、が3月にできるようにと私が願っているからだ。乗ってくれ。

## 英検2次試験終了

1次試験、2年生は2・準2級合わせて延べ101名受験とお知らせした。面接練習希望者は40名。希望せずに受験している者も入るのでもう少しは合格者がいるかもしれないが。英語科の各先生から指導をしてもらった成果が出ていればいいなあと心から思っている。

来年度、英検は受験料が爆上げだ（2級7,400円→9,700円、準2級6,900円→9,200円）。受ける予定なら、しっかり勉強して臨まないかね。第1回は5月30日。総体前で少しよかった。

## 就職・公務員志望者

2月15日、弘前市公共職業安定所の方をお招きして就職セミナーを開催。就職は9月16日から試験開始、公務員はいろいろあるが、だいたい8月に要項配布が始まり、9月に1次試験だ。特に民間就職の場合は開始日＝〆切日のつもりで書類を準備すべきだろう。また、公務員と民間の併願は年や企業によって違うが、簡単にはできないので注意（少なくとも9月16日企業応募は不可）。セミナーを生かし、自分と向き合って、志望先を決めよう。

### 主任公開ダイエットコーナー

現在81.3kg(+0.5kg, 1月比)。

思えば今年のこの時期81キロから86キロまで肥え、思い立ってダイエット、76キロまで減る。冬が来て、5キロ増えた。なんと、元に戻っているではないか！ 恐るべし、人間の体。また筋トレを始めた。3年生ではそう歩いてられないだろうから困ったな。



## 卒業式 送辞 全文

寒暖を繰り返しながら、確実に春の訪れが一步一步近づいているこの良き日に、晴れて卒業を迎えられる卒業生の皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

私たちは在校生は、入学当時、先輩方が、温かく朗らかな雰囲気でお迎え入れてくださったお陰で、安心して高校生活のスタートを切ることができました。

卒業生のみなさんと共に過ごした思い出を振り返ってみると、一番に浮かんでくるのは、怯まずに前を向き、情熱を燃やして課題と対峙する姿です。

特に、新型コロナウイルス感染症の脅威は、私たちの日常生活を侵食し、生活様式の変更を余儀なくさせました。

しかし、この1年間、運動会、中央祭、球技大会などの学校行事は、規模の縮小はあれど、例年と遜色ない盛り上がりや活気に満ちていました。先輩方とともに、これらの行事を全力で楽しむことができたことは、私たち在校生にとって、何物にも代えがたい大切な思い出です。

6月の運動会では、3年生の皆さんは、荒天をも圧倒する乱れのない動き、ユーモアあふれる集団行動、しなやかで華麗なマスクゲームを披露し、私たち後輩に希望の光を灯してくれました。休校明けの短い時間で、練習に励んだ苦勞が想像され、言葉で表現できないほどの感動をおぼえました。

7月の行事である中央祭は、今年度、オープニングセレモニーの会場を本校の第一体育館に変更して行われました。私は生徒会役員として、準備段階から先輩方の苦勞を見てきました。

「制限のある中でも、最高の中央祭にするためには、どうすればいいか」という難問に直面し、執行部内には、過去の経験が通用しない不安やもどかしさが募っていきました。そんな中でも、3年生の先輩方は、冷静に、そして熱く、「今年」の中央祭の「あるべき姿」を話し合っていました。私たち1、2年生は、その姿に、ただ圧倒されていました。

なぜ、この状況下にあっても、諦めずに前向きに努力できるのか。いったい、どこに、その「しなやかで強い精神力」の源泉があるのか。私は、一つの答えに思い至りました。それは、高校生活の中で、学業や部活動、学校行事や人との関わり合いに対して、先輩方が逃げずに真摯に向き合ってきた故ではないかということです。

センター試験から共通テストへの転換、以前と同じように部活動ができなくなってしまった悔しさなど、未曾有の試練が次々に訪れる中、卒業生の皆さんは、自己と向き合い、友人と切磋琢磨し合いながら、前進し続けました。進路棟の生徒会室へ向かう途中、先輩方が真剣な眼差しでペンを持ち机に向かう姿を眼にして、私は何度も勇気づけられました。また、受験が近づく直前まで、先輩方は成績を伸ばし続けたと伺い、私たちは奮起させられています。今度は私たちが、最上級生として弘前中央高校を牽引していかなければならないと、身の引き締まる思いです。

むすびにあたり、「予測困難な時代」を生きていかなければならない私たちが、その先駆者としての歩みを、間近で見せてくださった先輩方と、この学び舎で出会ったことに感謝申し上げますとともに、先輩達が範を示してくださった、真摯に努力を続け、前進し続ける中央生としての「誇り」をしっかりと受け継いでいくことをお誓いし、送辞といたします。

令和3年3月2日 在校生代表

## 卒業式 答辞 全文

弘前公園の桜の蕾もしだいに膨らみ始め、開花を待つ命の鼓動が感じられる季節となりました。本日は私たち卒業生のためにこのような素晴らしい式を挙げて頂き、ありがとうございます。また、ご多忙の中ご出席くださいました御来賓の皆様、先生方。卒業生一同から御礼申し上げます。

私は、高校二年生の時に弘前中央高校に転校してきました。私が中央高校に通い始めたころ、弘前でちょうど桜が咲き始めていました。校門や敷地内、そして弘前公園の満開の桜を見て感動したことが昨日のこのように思い出されます。始業式の日には、これから始まる新しい環境での高校生活を思い不安でいっぱいでした。緊張していた私にまず声を掛けてくれたのが、先生方でした。「サポートするからね」「一緒に頑張ろう」と言ってくれた言葉が今でも心に残っています。授業が始まるまで移動教室の場所も分からない上に授業の進度や進め方もそれまでとは違って、少し疲れてしまいう学校に行きたくないと思った日もありました。そんな時助けてくれたのが、先生方であり、クラス

メイトでした。日常の他愛のない会話や優しさが、私にとっては大きな支えでした。ありがとうございました。そして、部活動では同じ目標を持ち、好きなことと一緒に打ち込める仲間と出会い、充実した日々を送ることができました。今年度は新型コロナウイルスの影響で最後の大会が中止となり、悔しい思いをした人も多いと思いますが、同じ気持ちを共有した仲間とのつながりは何ものにも代えがたいものとなりました。

また、私が中央高校で過ごした中で一番感銘を受けたのは、総合的な学習の時間です。正直最初は、進路探究のために毎週のように時間を費やすということが信じられませんでした。しかし、次第にその重要性に気づき、自分自身と丁寧に向き合う時間が設けられていることへのありがたさを感じるようになりました。これからの人生をどう歩むか、どういう人間になりたいか、進路を決めていく上で大きな材料となったことは確かです。一人で考えるだけでなく、クラスや学年を越えて意見を交換したり、発表したりできたことも、必ず一人一人の力になっていると思います。

私は、弘前中央高校に通うことができてよかったと心から思っています。転校してから辛いことや苦しいこともありましたが、それ以上に得られたものが多い2年間でした。そう思えるのは、中央高校での様々な出会いがあったからです。

先生方。私たちが無事に卒業できるのは、先生方のお力添えがあったからです。昼休みや放課後、毎日のように職員室前の机や教室で相談に乗っていたり生徒からの質問に答えていたりした姿が強く印象に残っています。私自身、進路のことで迷った時に納得がいくまで一緒に考えて下さってとても心強かったです。どんな時も私たちの気持ちに寄り添い、時間を割いてくださった先生方。中央高校の先生方の指導を受けることができて本当に良かったです。ありがとうございます。また、大雪の日でも朝には敷地内がきれいに除雪されていたり、中庭の草木が丁寧に整えられている様子を見ることで、事務の方をはじめ、多くの方々のおかげで私たちは安心して学校生活を送ることができていると実感したものです。たくさんのサポートをありがとうございました。

在校生代表として送辞を読んでもらった さん。先ほどは心温まる送辞をありがとうございました。そして今日は参加できなかった後輩の皆さん。弘前中央高校は120年の伝統を持つ歴史ある学校です。中央生としての誇りと自覚をもって仲間やサポートしてくださる方々への感謝を忘れずに中央高校をさらに盛り上げていってください。残りの高校生活が実りあるものとなるよう応援しています。

最後に家族へ。これまでの18年間、いつも温かく見守り、支えてくれてありがとう。私たちをどんな時でも気にかけて、応援してくれました。仕事で疲れているにもかかわらず、毎朝、早くからお弁当を作ってくれたり、休日には部活動の大会を見に来たりしてくれました。時には口げんかもしましたが、次の日には優しく笑って私を受け入れてくれました。特に今年度は、目まぐるしく変化する状況の中、落ち込んだり悩んだりすることも多くたくさん心配をかけたと思います。私たちが充実した高校生活を送れたのは、家族の支えがあったからです。これから先まだまだ教わることもあり、お世話になるとは思いますが、今まで支えてもらった分、少しずつ恩返しをしていきます。本当にありがとうございました。

いよいよ巣立ちの時が来ました。振り返ると様々なシーンが思い出されます。綺麗な中央棟。そこから見えた満開の桜。荘厳な図書館。体育館が4階にあることの驚き。一度は使ってみたかったエレベーター。中央棟から進路棟へ引越した時のあのギャップ感。おなかを抱えて笑い合った友との会話。分からない所を教え合った問題の数々。隣の教室から聞こえてくる奈良岡先生の声…。趣向を凝らした色とりどりのクラスTシャツ。一条乱れぬ美しさを目指して懸命に練習したマスクゲーム、集団行動。円陣を組んで勝利を誓った球技大会。休日返上で準備した模擬店。張り上げた声。切りに切ったたくさんの野菜。熱さと戦った鉄板の前。本当の意味で燃えていた4組…。私たち卒業生はこれから別々の進路を歩むこととなりますが、中央高校で過ごした時間やそこで出会ったのは必ず私たちの心の支えとなるとは思います。

遅くまで残って勉強したあの教室とも、もうお別れです。友人とのさよならがまた一つ、二つと消え、こうして本日、私たちは弘前中央高校から巣立ち、それぞれの道へ進んでいきます。未熟な私たちですので、卒業後も変わらぬご指導を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、学校生活を支えてくださったすべての方々に改めて御礼申し上げますとともに、弘前中央高校の更なる発展を願って答辞の言葉とさせていただきます。

令和3年3月2日 卒業生代表